

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 14人

② 算数 14人

5 留意事項

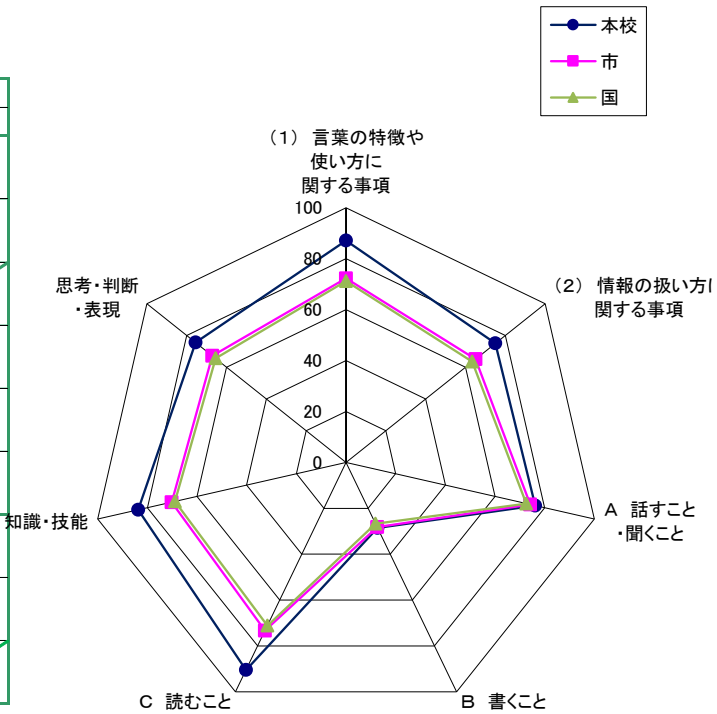
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	87.1	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	75.0	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	76.2	74.2	72.6
	B 書くこと	28.6	28.2	26.7
	C 読むこと	90.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	83.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	75.5	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

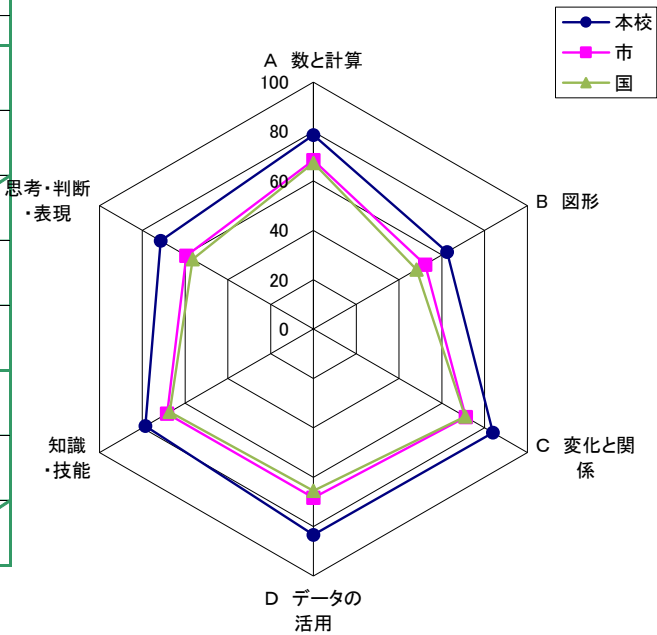
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、87.1%で市平均を大きく上回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問において、正答率が85.7%と92.9%で、市平均を非常に大きく上回った。 ●送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問において、正答率が92.9%で、市平均と同程度だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の意味調べを行い、言葉と意味につながりがもてるようにする。 ・例文作りなどの補助学習を行うことで、理解を深めていけるようにする。 ・作文指導において、普段から漢字を使うことを徹底していく。 ・図書室を利用する際にことわざや故事成語に関する本などを紹介して慣れ親しめるようにする。 ・AIドリルを活用し個々の課題に応じた学習を継続して行う。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、75%で市平均を大きく上回った。 ○原因と結果などが情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる設問において、78.6%で市平均を大きく上回った。	・説明文の学習において、それぞれの情報が何を示しているのかを考えさせる際に、焦点を絞って整理できるように今後も指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、76.2%で市平均をやや上回った。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問において、正答率が85.7%で市平均を大きく上回った。 ●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる設問において、正答率が71.4%で市平均をやや下回った。	・他教科との関連を図りながら、話し合い活動の充実を図り、相手意識・目的意識を明確にしてお互いの考えを伝え合う場の設定を行っていく。 ・特に会話科と関連させ、インタビューの学習活動で、話し手の意図を捉えながら話を聞いたり、質問したりできるよう指導の充実を図っていく。 ・ICTを活用しスライドを使用したプレゼンテーションを授業の中で相手に伝える話し方ができるように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、28.6%で市平均と同程度だった。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問において、正答率が市平均と同程度ではあったが、28.6%と非常に低かった。	・各教科で自分の考えを書く活動を取り入れているが、今後も他教科他領域とも関連付けながらグラフや表などを用いて言語活動を行わせたり、情報を分析させ、それをもとに記述させるなどの指導を充実させていく。 ・普段の学習においても、自分の考えをノートに書いてから、お互いの意見交流をしていくことで、自分の考えをまとめていく機会を増やしていく。 ・書くことと読むことは表裏一体であるため、読書活動へ意欲的に取り組ませっていく。
C 読むこと	平均正答率は、90.5%で市平均を大きく上回った。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問において、85.7%で市平均を非常に大きく上回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問において、85.7%で市平均を上回った。	・資料から何を読み取ることができるか、着目点を明確にすることで情報の読み取りが正確にできるようにする。 ・自分の考えを箇条書きで書かせ、可視化することでまとめやすくする。 ・今後も読書活動を奨励すると共に読む本のジャンルを広げていくように働きかけ、登場人物の心情を読み取ったり情景描写を味わったりする機会を設けることで、叙述を基に理解を深めていけるよう支援していく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	78.6	68.4	67.3
	B 図形	62.5	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	83.9	71.2	70.9
	D データの活用	83.3	68.3	65.5
観点	知識・技能	78.6	68.4	67.2
	思考・判断・表現	71.4	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、78.6%で市平均を大きく上回った。 ○以上の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる設問では、100%の正答率だった。 ●2位数÷1位数の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる設問では、正答率が市平均を下回った。	・場面を想定し、商の意味を理解させるとともに、図を基にして解法が考えられるよう、授業展開を工夫する。 ・計算問題に関しては、今後も解法を理解すると共に、学んだことを習熟できるよう年間を通じて復習に取り組ませる。
B 図形	平均正答率は62.5%で、市平均を大きく上回った。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問では、正答率が市平均を大きく上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問では、正答率が市平均を非常に大きく上回っているものの42.9%と正答率が低かった。	・図形を構成する要素に着目し、様々な資料や具体物に触れたり、練習問題に取り組むことで、理解を深められるようにする。 ・図形の意味や性質をさらに正しく理解することができるよう、学んだことを自分の言葉でまとめさせる活動を取り入れる。
C 変化と関係	平均正答率は、83.9%で、市平均を大きく上回った。 ○百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる設問では、正答率が、市平均を非常に大きく上回った。 ●伴って変わる二つの数量について表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる設問では、正答率が県と同程度であった。	・発展的な問題や記述を要する問題においては、より身近な問題や具体的な場面について、それまで学習したことと生かして考えさせる機会を設けるようにする。 ・基礎的な問題の正答率は高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていく。
D データの活用	平均正答率は、83.3%で市平均を大きく上回った。 ○示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる設問では、正答率が市平均を非常に大きく上回った。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる設問では、市平均よりやや下回った。	・表やグラフの読み方について、着目する部分が不明確な場合の理解が不十分であることから、言葉や数を用いて説明するような授業展開を取り入れることで、さらに自分の考えを記述する力を身に付けさせたい。 ・表に入る数を答える基礎的な問題に関しては、補充プリントやドリルを用いて習熟を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の設問において、児童の肯定割合が100%だった。少人数であることを生かし、一人一人の特性を把握しながら指導したり、T.Tを活用した学びの個別最適化を図ったりしていることが有効だと考えられる。

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問において、肯定割合が市平均を下回った。学習指導面での面倒見のよさが、児童指導面でも生かされるよう、「小さな学校だからこそできること」を学級担任をはじめ、用職員が連携しながら推進していく必要がある。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問において市平均を大きく上回った。学習指導要領にうたわれている、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて着実に教育活動が行われてきたことの成果と考えられる。

●「友達関係に満足していますか」の設問において肯定割合が市平均を大きく下回った。入学以来ほぼ同じメンバーで過ごしてきたことによる閉塞感が感じられる結果であった。しかし、6年間共に過ごしたからこそ深められた絆もあると考えられる。残り僅かな小学校生活をより充実したものにするよう、道徳教育を中心に指導の充実を図っていく。

○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の設問において、肯定割合が市平均を大きく上回った。「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問において、9割以上の児童が1時間以上の学習をしている。「土曜日や日曜日などが休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問において、7割以上の児童が1時間以上の学習をしている。良好な学習習慣が十分定着していると考えられる。

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の設問において、7割以上の児童が少なくとも月に1～3回程度行くと回答しており、市平均を非常に大きく上回った。「読書は好きですか」の設問においても、肯定割合が9割以上で、市平均を非常に大きく上回った。

○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」「5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたが」の設問において、肯定割合が市平均を非常に大きく上回った。学習に対して主体的に学ぶことができていたと考えられる。

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問において、肯定割合が100%であり、市平均を非常に大きく上回った。

○「あなたの学級では、学生生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか」の設問において、肯定割合が100%であり、市平均を大きく上回った。

○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の設問において、肯定割合が9割以上で、市平均を大きく上回った。学習したこと以外にも学校での活動から日々の生活に関連させていることが伺える。

○「家庭学習の課題として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話す練習をしたりしていますか」の設問において、週1回程度以上と回答した児童が半数以上であり、市平均を非常に大きく上回った。

宇都宮市立城山西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
道徳科の授業を柱とした豊かな心を育む教育の推進	・宇都宮モデルを活用した授業改善の推進 ・認め励ます学習指導を通して、学習における達成感や自己肯定感を高める。 ・互いが尊重し合いながら学ぶ環境の整備 ・特別活動を要としたけるキャリア教育の充実と、学びの原動力となる知的好奇心の育成。	・児童は、先生の学習指導に対して満足している反面、困ったことや悩みごとを気軽に相談できない感じている傾向が見られた。 ・友達関係についても不安定さを感じられた。
児童の学びを深めるための、教師のコーディネート力の向上	・全校共通の学業指導と学びに向かう集団づくり ・ハンドサインを活用した授業の展開 ・児童が考え議論し、学びを深めることのできる授業づくり ・一人一台端末を活用した協働的な学習との個別最適化学びの併用	・学習活動に積極的に参加し、そこでの学びを他教科等や日常生活につなげている児童が非常に多かった。 ・話し合い活動において、積極的に意見を言ったり、他者の考えに耳を傾けたりすることがよくできている。加えて、話し合いから自分のその後の行動の指標作りをしたり、集団の方向性について考えたりしていることが分かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語科において、各種データを用いて自分の考えを書くことや、相手の意図を理解するために必要なやり取りをするコミュニケーション能力が低い傾向であった。 ・算数科において、知識及び技能の定着は十分図られていたが、基礎的事項を基に思考したり判断したり表現したりする事については不十分な面が見られた。	・教科横断的な指導のより一層の充実 ・個に応じた指導の見直しと最適化 ・振り返りの充実	・授業または単元の導入や終末において、学習内容がどのような事柄とつながりがあるのかを意識しながら学習できるよう働きかけていく。そのために、教員は教科横断的な指導を念頭に教科等の指導に当たる。 ・単元末または授業の終末において、児童それぞれが学んだことや学習活動を通して疑問に思ったこと・考えたこと、今後の学習に生かしたいことなどを言語化して表現する機会を設け、学びの連続性をもたせていく。